

保健師より
(区役所3階33番)

浪速区敷津東1-4-20
6647-9968



夏に流行する感染症にご注意を！



高温多湿を好み夏に増殖するウイルスが原因で、せきやくしゃみ、ウイルスに触れた手を介して感染がひろがります。6月頃から乳幼児を中心に増え始め、7～8月にピークとなります。子どもだけでなく、大人も注意が必要です。

咽頭結膜熱(フェール熱)	手足口病	ヘルパンギーナ
<p>症状 39～40℃の高熱、のどの痛み、目の症状(充血、眼痛、目やになど)など</p> <p>◇1週間程度でおさまります </p>	<p>症状 手のひら・足の裏などに米粒大の水ぶくれを含む発疹、口内炎、39℃以下の発熱、のどの痛みなど</p> <p>◇3～8日でおさまります </p>	<p>症状 39℃以上の突然の発熱、のどの奥に水ぶくれ(水ぶくれが破れると痛みも伴います)など</p> <p>◇2～4日で解熱し、8日程度でおさまります </p>

❖ 予防法は…

手洗い、うがいをしっかりしましょう。
手洗いの際は、石鹸で手をよく洗い、タオルの共有は避けましょう。



❖ かかってしまったら…

いずれも、特効薬がないため、それぞれの症状を和らげる対症療法が中心です。症状がおさまるまで、部屋を涼しくして安静にしましょう。のどの痛みで食欲がなくなりますが、食べられるものを少しずつ食べるようにしてください。脱水症の予防に、こまめに水分・塩分をとりましょう。発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状があれば、すぐに医療機関に相談しましょう。